

薬剤師（衛生化学）

日本人の死亡率に関する次の記述のうち、下線部分が正しいのはどれか。

1. 粗死亡率は明治大正年間には20前後であったが、1951年（昭和26年）には10を割り、ここ40年間は年々減少し続けている。
2. 昭和初期までは死因順位の上位を感染症が占めていたが、その後、死因構造の中心が感染症からいわゆる生活習慣病に変わり、現在では死因順位第10位以内に感染症は入っていない。
3. 脳血管疾患による死亡率は、1970年（昭和45年）を境に減少し始め、それ以来、脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血による死亡率は、いずれも年々減少し続けている。
4. 結核による死亡率は、1950年（昭和25年）には死因第1位であったが、その後急減した。しかし、現在も年間1万人以上の結核患者が新たに登録され、このうち半数以上は60歳以上である。
5. 悪性新生物による死亡率は、1955年（昭和30年）以降、一貫して増加傾向にあり、部位別にみると、胃がんと大腸がんによる死亡率は減少傾向、肺がんと乳がんによる死亡率は増加傾向にある。

（正答＝4）

薬剤師（有機化学）

有機化合物の構造に関する a～e の記述のうちから、正しいもの二つを選んで  
いるのはどれか。

- a. 2-プロパノールの三つの C 原子及び O 原子は同一平面上に存在する。
- b. 1,3-ブタジエンの四つの C 原子は同一平面上に存在する。
- c. 1-プロパノールは、三つの C 原子及び O 原子が同一平面上に存在し、アンチ型であるものが最も安定である。
- d. 酢酸の二つの C 原子と二つの O 原子はカルボキシル基の C 原子を頂点とした三角すいの構造をしている。
- e. シクロペンタンは、五つの C 原子が同一平面上に存在する構造が最も安定である。

- 1. a, b
- 2. a, d
- 3. b, c
- 4. c, e
- 5. d, e

(正答 = 3)